

「大学教育改革フォーラム in 東海2007」を開催

●高等教育研究センター

高等教育研究センターは、3月10日(土)、IB電子情報館において、「大学教育改革フォーラム in 東海2007」を開催しました。これは、東海地域の大学の教職員が、それぞれの大学で教育を改善するために何をすべきかについて、率直に語り合おうという集まりで、本学や東海地域の大学の教職員のほか、福島、東京、京都、岡山など全国各地から計140名が参加しました。

本フォーラムでは、戸田山高等教育研究センター長の開会宣言、杉山理事のあいさつに続いて、黒木登志夫岐阜大学学長により、「学長の本音が語るミドルマネジメントへの

期待」と題する基調講演が行われました。講演では、最近の高等教育政策の概要と特徴を明らかにし、その中で国立大学法人の置かれた厳しい状況や、そこで働く教職員に求められる課題について報告しました。

続いて、午前と午後の2回、分科会に分かれて、「高大連携・初年次教育」、「大学職員の専門性と研修」、「今求められるキャリア支援とは」、「FDが形成すべき能力とは」という現在各大学が直面している重要問題をテーマに、報告と討論が行われたほか、パネルディスカッションやポスター発表が行われました。

本フォーラムを通じて、大学を取り巻く厳しい環境の中でも、多くの心ある人たちが自分の大学をよくしたいと願って日々努力していることを確認することができました。来年度以降も同様のフォーラムを開催することを確認して、盛会のうちに幕を閉じました。



あいさつする杉山理事



会場の様子

「防災フェスタ2007 in 名古屋大学」を開催

●大学院環境学研究科

大学院環境学研究科は、3月4日(日)、IB電子情報館において、「防災フェスタ2007 in 名古屋大学」を開催しました。これは、愛知県、名古屋市、大学院環境学研究科等のグループが文部科学省の委託で実施した、近い将来の巨大地震に対し、住宅耐震化や地域連携を住民一人一人に促す方策やシステムを開拓した「防災研究成果普及事業」の最終成果報告会として実施されたものです。

本フェスタは、成果報告会にとどまらず、行政、大学、建設・ライフライン技術者、マスメディア、教育者、そ

して市民、ボランティア、NPOが日頃から緊密に連携し、楽しい行事を通じて一般に防災の大切さを発信する取り組みとして全国で注目されており、多くの取材陣も訪れ、参加者は、幼児からお年寄りまで総勢600名を超えました。

基調講演やパネルディスカッションと同時に、地域防災力向上シミュレータ体験、防災ファッションショー、紙芝居、耐震診断、家具固定、救命救急、防災まち歩き、防災運動会、津波実験、震災シミュレーションゲーム、ストローハウス、防災カフェなど、30を超える様々な体験、展示コーナーが設けられ、参加者は、各種コーナーで気軽に楽しみながらも防災に対する意識が高められた様子でした。昼食時には、炊き出しとして、生協の協力によるトン汁とご飯が提供されました。

フェスタ終了後には、来年度以降の開催を期待する声が多く届けられ、もう少し市民に近い場所に会場を移しての開催が検討されています。



様々な企画ブースが並んだプレゼンテーションスペース



防災ファッションショーの様子